

2 0 1 5 年度（平成 2 7 年度）

事 業 計 画 書



学校法人 和泉短期大学

2 0 1 5 . 3 . 2 0

目 次

	ページ
1. 法 人	6
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	18
4. キリスト教活動	20
5. 研 究 活 動	22
6. 委 員 会 活 動	36
7. 広 報 活 動	44
8. 施設・設備経費	47
9. 財政の概要	50

学校法人 和泉短期大学 沿革

- 1952年8月 J. C. クラーク博士が敗戦直後の日本の困窮児を救済するため、G. E. バット博士、V. J. ミルス博士と共に社会福祉法人基督教児童福祉会を設立し、全国の養護施設（現・児童養護施設）への助成を開始。
- 1956年5月 当時、福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉界の重要な課題であったため、基督教児童福祉会は、本学の前身である福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を東京世田谷区に開設。
- 1960年5月 現任訓練の成果は、施設保母（現・保育士）養成機関を常設してほしいという強い要望となり、わが国はじめての入所型の児童福祉施設保母（現・保育士）養成機関・玉川保母専門学院を設置。
- 1965年4月 児童福祉事業の進展に伴い、さらに充実した高度な専門教育機関が求められるようになり、玉川保母専門学院はCCF の多大な援助のもと、学校法人クラーク学園和泉短期大学児童福祉科に改組転換。
- 1966年4月 児童福祉科に幼稚園教諭養成課程を設置。
- 1976年8月 神奈川県相模原市に校舎に全学移転。
- 1985年4月 全国に先駆けて老人福祉ワーカーの養成機関・クラーク学園和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）を和泉短期大学に近接して開校。
- 1988年4月 和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）が介護福祉士養成機関として認定。和泉短期大学児童福祉科に社会福祉士国家試験受験資格を取得するための教育課程を新設。（2003 年度より休止）
- 2000年4月 児童福祉科から児童福祉学科へ名称を変更。
- 2004年11月 50 周年記念事業として4号館（体育館）を竣工。
- 2006年5月 クラーク学園創立50 周年。子育てサロン『はっぴい』を開設。
- 2008年3月 （財）短期大学基準協会の「第三者評価」を受け、評価結果は『適格』と認定。
- 2009年7月 文部科学省・学生支援推進プログラムに選定-（1）。
- 2010年3月 和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を閉校。
- 4月 和泉短期大学に専攻科介護福祉専攻を設置。
- 9月 文部科学省・大学生の就業力育成支援事業に選定-（2）。
- 2011年4月 キャリアデザインセンター（CDC）開設
- 2013年1月 文部科学省・産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に選定-（3）。
- 2013年4月 学校法人名を「クラーク学園」から「和泉短期大学」に変更。
- 2015年3月 一般財団法人短期大学基準協会による2回目の平成26年度第三者評価の結果、適格と認定された。

設置学校等

理事長 深町 正信（ふかまち まさのぶ）

和泉短期大学

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1

学 長：佐藤 守男（さとう もりお）

学科名	入学定員	収容定員
児 童 福 祉 学 科（2年制）	250名	500名
専攻科介護福祉専攻（1年制）	20名	20名

和泉短期大学 建学の精神

1952(昭和 27)年、米国財団 CCF (Christian Children's Fund, Inc. : キリスト教児童福祉会) 創立者の J. C. クラーク博士は敗戦直後の日本の困窮児を救済するため G. E. バット博士、V. J. ミルス博士と共に全国の養護施設(現・児童養護施設)の助成を開始した。1956(昭和 31)年、当時福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉の重要な課題であったため、キリスト教児童福祉会は、福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を開設した。このことが本学の起源である。CCF の日本事務所として CCWA が設立され、現在は NPO 法人チャイルド・ファンド・ジャパンがその愛の精神を受け継いでいる。

本学はヨハネによる福音書より校名を「和泉」と命名し、「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」の標語を掲げ、キリスト教信仰に基づく児童福祉を基盤とした「愛と奉仕」[「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節]を建学の精神またスクールモットー、スクール聖句としている。



和泉短期大学のロード・マップ

Make a fresh start ～ 新たなる出発 ～

— 愛と奉仕 — love and service

- 隣人を自分のように愛しなさい — マタイによる福音書 22章 39節
- わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人が内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。 — ヨハネによる福音書 4章 14節

①教育の理念

本学は、キリスト教信仰に基づき、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う「**愛を実践する専門家**」を養成することを使命とし、教育はすべての人間の個人の尊厳を尊重し、ライフステージに適合する福祉の「**ユニバーサルサービス**」の達成をめざし、教え合い学び合う「**開かれた教育共同体**」の形成をめざす。

次の標語を教育実践の心構えとする。

1. MISSION：使命を確認し、責任を自覚する。
2. PASSION：熱意と誠実をもって行動する。
3. ACTION：進展・向上に向けて行動する。

②教育目標

本学は、建学の精神「愛と奉仕」に基づき、二年間の教育を通して、次のような資質を有する人物を育成することを目標としている。

1. キリストの愛の教えを基盤とし保育（教育）・福祉専門職として人権を尊重する者。
2. さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる者。
3. 世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する者。

③入学者受け入れの方針

和泉短期大学では、建学の精神、教育の理念及び教育目標に示される事項に賛同する者を入学者として受け入れる。

【児童福祉学科 志願者に推奨すること】

高等学校での幅広い学びと豊かな経験は、保育（教育）・福祉専門職を学ぶための基盤となる。下記は、とくに高等学校在学中に取り組むことを推奨する事項でもある。

1. 保育（教育）・福祉専門職に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 保育（教育）・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得する。

※これらは、児童福祉学科への出願・入学の条件ではない。

【専攻科介護福祉専攻 志願者に推奨すること】

保育士養成校での学びは、介護福祉の専門的な学びの基盤となる。下記は、とくに保育士養成校在学中に取り組むことを推奨する事項でもある。

1. 社会福祉に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験する。
3. 対人援助の基礎となる自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）を修得する。

※これらは、専攻科介護福祉専攻への出願・入学の条件ではない

④教育課程編成の方針

【児童福祉学科】

1. キリスト教の愛の教えを基盤とし、保育(教育)・福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、本学は「教養教育科目」、「専門教育科目」の学習区分を設定し体系的にカリキュラムを編成する。
2. 2年間で所定の単位を修得し、保育(教育)・福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、保育士資格・幼稚園教諭二種免許が取得できるようカリキュラムを配置する。
3. 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザー制により、学生の学ぶ意欲を支援する。
4. キャリア教育を推進し、保育士資格・幼稚園教諭二種免許取得のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

【専攻科介護福祉専攻】

1. キリスト教の愛の教えを基盤とし、介護福祉専門職として人権を尊重する者を育成するため、体系的にカリキュラムを編成する。
2. 1年間で所定の単位を修得し、介護福祉専門職の知識や技能を身につけることができ、介護福祉士国家試験受験資格が取得できるようカリキュラムを配置する。
3. 各学生の個性を尊重した授業環境のもと、学習成果があがるようにする。また少グループを担当する教員のグループアドバイザー制により、学生の学ぶ意欲を支援する。
4. キャリア教育を推進し、介護福祉士資格のための学外実習を重視する。また学生がボランティア活動を積極的に経験することを奨励する。

⑤学位授与の方針

1. 本学に2ヵ年以上在学し、所定以上の単位を修得した者。
2. 単位認定の条件・評価方法による成績評価に基づき単位を付与された者。
3. 子どもに対する確固とした価値観である「子どもの権利」を尊重できる者。
4. 本学の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」の実践者となる人間観を身につけている者。

学校法人和泉短期大学の基本構想

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】

スクールモットー 【愛と奉仕】

－2015年度－

2号館外壁塗装
館内共用部Pタイル
取替改修工事

アクティブラーニング
教室整備

キャンパスの集約

給付奨学金・学生顕彰
制度の充実と実施

大学を取り巻く環境

18才人口の減少	大学進学率		大学の 財政赤字	大学の中退者・ 進路変更	高等教育政策	短期大学 進学者の減少
	大 学	短期大学				
1992年 205万人	24.6%	11.7%	2012年度 大学 35.4% 短大 56.4%	2012年度末 80,000人、2.65% (経済的理由、学習 意欲の喪失等) 非正規雇用の増加	「実践的な職業教育 を行う高等教育機 関制度化」の検討	専門学校への 進学者増加 2013年度 21.9%
2013年 123万人	49.9%	5.3%				
2014年 120万人						

今年度の目標と課題

1. 新たな教育・研究の充実

- ・教職員が一致・協力して新たな教育・研究の充実を図り、日本で唯一の単科の児童福祉学科としての発展を図る。
- ・ペーパーレス会議システムの導入によりエコ活動の促進。

5. 「地元密着型」、「実力養成型」短期大学として 2018年度問題に対応

18歳人口の急激な減少に対応するため、教職員が一体となって「地元密着型」、「実力養成型」の保育者養成校として、受験生を獲得していく。

2. 専攻科の将来検討

2020年問題に直面して、入学定員確保を目指すとともに、今後の介護福祉士養成校としての在り方を慎重に且つ具体的に検討していく。

6. 相模原市と市内7大学との包括連携協定の具体化

2014年11月18日相模原市と市内大学との「包括連携協定」を締結したことにより、地域連携推進センターが中心となり、具体的に本学のスキルを幼児教育・保育・福祉分野で他大学と協力して発揮していく。

3. 周辺土地の整備拡充

「第2号基本金組み入れ計画表」の土地取得、5号館売却で得た資金を有効活用できるように、本学周辺の土地整備のために、新たなキャンパス整備計画など短期大学周辺の土地の整備拡充を図る。

7. 1号館、2号館 校舎建て替え将来構想の検討

相模原市に移転して38年となり、1号館、2号館の建て替え計画を将来構想と併せて検討していく。

4. 保育園園舎建設底地の貸与

本学テニスコートの一部(2,423.97 m²)を和泉保育園園舎建て替えに協力するために、賃貸借契約を締結する。保育園設立後は、本学の教育・実習等で連携していく。

8. 教職員給与水準維持の検討

教職員が最大限の努力を積み重ね、入学定員確保と受験生増加を図り、一般企業や公務員並みの給与水準を維持できるように財務体質の強化を図るべく努力していく。

「2015年度和泉短期大学の将来計画」

理事長 深 町 正 信

和泉短期大学は昨年度から12年間（4期）学長をされた伊藤忠彦先生から新たに学長として佐藤守男教授が新学長に選任されました。伊藤先生には今後とも、特任教授、チャプレンとしてご指導いただくこととしました。昨年、2014年の1年間は佐藤守男新学長のもと、和泉短期大学は教員と職員とが一致、協力して、和泉短期大学の新たな教育、研究の充実をはかり、日本でただ一つの児童福祉学科の単科短大としての発展をはかり、現在、直面している様々な具体的問題の解決に真剣に取り組んできました。

幸いにも、2015年度の学生募集も、多くの教職員、関係者の努力により、今年度の募集定員の250名を十分に満たすことができました。これらの入学して来る予定の学生達のためのプログラム「入学前教育」が今年度更に改善され、充実して、実施されることになり、大いに期待し、心強い限りであります。しかし、和泉短期大学の専攻科については学生定員20名を満たすことができるのかどうか、現時点ではまだはっきりと言えませんが、極めて厳しい数字ですので、次年度に向けて、今後ともどうするかを慎重に議論する必要があるかと思っています。

2013年度は、元老人福祉専門学校の校舎として使用してきた建物の「5号館校舎」を売却することとしました。その売却先は、現在、相模原市を中心として、約50余の事業所を大きく展開している社会福祉法人相模福祉村に譲渡することとし、建物の引き渡しを完了しました。この売却により得た資金はひとまず現預金として計上し、今後の和泉短期大学の新しいキャンパス構想の実現のため、つまり、現在の和泉短期大学校舎の周辺の土地整備のため、新たな土地を購入するときの資金の一部として使用することを決めました。

次に、隣接地にある和泉保育園が新しい園舎の建設に取り組むことになり、あちらの理事会から正式に、現在の和泉短期大学のテニス・コートの一部に、新園舎を建てる必要があるため、是非、その土地を貸して欲しいとの申し出が和泉短期大学に正式にありました。それは勿論、無償でということではなく、その土地使用料を支払うからとの申し出もあり、こちら側としても、現在の保育児童の受け入れが困難な状況に鑑みて、この申し出に出来るだけ協力することとしました。

この件は勿論、直接色々な影響を受ける近隣住民の方々も同意されました。和泉短期大学としては、少しでも地域住民の方々の子育てに、間接的であっても、これに協力することは近隣住民の方々にもお役に立つことだと最終的に判断しました。

現在、日本では「2018年度問題」と呼ばれる大学受験者の急激な減少が加速度的に進んでおり、今や、大学入学希望者が全員合格の時代を迎えています。他方、少子高齢化が急激に進んでいるとさ

れています。この意味で、本学は現時点で言えば、帰属収入の90%を学生からの学納金によっていますので、学生の確保がとても大事であります。この点で、今年度は例年にまして、教員、職員が一体となり、「地元密着型」の短期大学、「実力養成型」の保育者養成校として受験者を最大限の努力を積み重ねて獲得する必要があります。

更に、2014年は相模原市内にある青山学院大学、麻布大学、桜美林大学、女子美術大学、そして、和泉短期大学が2014年11月18日に、市長の立ち会いのもとで締結した「包括連携協定」を誠実に実施し、地元、和泉短期大学のスキルをもって、幼児教育、保育、福祉の分野で、他大学と協力して、大いに貢献してゆくことが求められています。

現在、本学の校舎はすぐに建て替えをする必要はないとの診断が下がっていますが、そろそろ具体的に、将来構想を検討する時ではなかろうかと思い、その検討にとりかかる必要があるのではないかと思慮しています。

現在、政府は経済政策の一環として、利益を上げた企業は出来るだけ従業員の賃金を少しでも上げて欲しいとしていますが、和泉短期大学としても、本来は賃金を上げることはなかなか難しい状況にあります。なぜならば、それが退職金・ボーナス等にもすぐに影響してくるからです。その実施を何としても、慎重に、前向きに実施したいと思料していますが、これまで記してきたように、本学は教員、職員、法人役員、同窓会、後援会等がよき働きをしてくださっているので、なんとかして、学校法人の規則に則り、公務員並みの水準に少しでも近付けるように給与の改善に努力していきたいと考えています。

法人事業計画

○理 事 会

2015 年	5 月	23 日 (土)	理事会 (決算)	於：和泉短期大学
2015 年	10 月	23 日 (金)	理事会 (予算骨子)	於：ユニコムプラザさがみはら
2016 年	1 月	30 日 (土)	理事会	於：和泉短期大学
2016 年	3 月	18 日 (金)	理事会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○評議員会

2015 年	5 月	23 日 (土)	評議員会 (決算)	於：和泉短期大学
2016 年	10 月	23 日 (金)	評議員会 (予算骨子)	於：ユニコムプラザさがみはら
2016 年	3 月	18 日 (金)	評議員会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○学内運営協議会

- 出席者：理事長、学長、チャブレン、事務局長、教務部長、その他、庶務ユニットリーダー

2015 年	4 月	8 日 (水)	4 月	15 日 (水)	4 月	22 日 (水)	5 月	13 日 (水)
	5 月	20 日 (水)	5 月	27 日 (水)	6 月	3 日 (水)	6 月	10 日 (水)
	6 月	17 日 (水)	6 月	24 日 (水)	7 月	1 日 (水)	7 月	8 日 (水)
	7 月	15 日 (水)	7 月	22 日 (水)	7 月	29 日 (水)	9 月	2 日 (水)
	9 月	9 日 (水)	9 月	16 日 (水)	9 月	30 日 (水)	10 月	7 日 (水)
	10 月	14 日 (水)	10 月	21 日 (水)	10 月	28 日 (水)	11 月	4 日 (水)
	11 月	11 日 (水)	11 月	18 日 (水)	11 月	25 日 (水)	12 月	2 日 (水)
	12 月	9 日 (水)	12 月	16 日 (水)				
2016 年	1 月	6 日 (水)	1 月	13 日 (水)	1 月	20 日 (水)	1 月	27 日 (水)
	2 月	3 日 (水)	2 月	10 日 (水)	2 月	17 日 (水)	2 月	24 日 (水)
	3 月	2 日 (水)	3 月	9 日 (水)	3 月	16 日 (水)		

○学園行事

2015 年	4 月	13 日 (月)	イースター特別礼拝
	5 月	11 日 (月)	創立記念礼拝
	5 月	25 日 (月)	ペンテコステ礼拝
	11 月	16 日 (月)	召天者記念礼拝
	11 月	30 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月	12 日 (土)	クリスマス・コンサート
2016 年	1 月	6 日 (水)	新年礼拝

2. 和泉短期大学

2015年度 事業計画

学長 佐藤 守 男

本学は「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神とし、「愛と奉仕」をスクールモットーに掲げ、施設・保育所・幼稚園で働く保育・福祉専門職の養成にあたってきました。これから先も神の御胸に叶い、ますます本学が発展するよう願っています。

ところで、今年度より、学校教育法の改正によって、学則・教授会規則・部長会規則を改正し、学長のガバナンスの強化、コンプライアンスの遵守、教授会の役割等をより明確化しました。

また、今年も、大学を取り巻く社会状況の変化、少子化に伴う大学の学生定員充足率の低下と経済の悪化等による中途退学者の増加が見込まれます。

本学は、これらの状況を見据え、建学の精神に基づき、「教育の質の保証」、並びに、「学生支援の強化」を一層進めて行く所存であります。

1) 学長のガバナンスの強化

- ①副学長制度の導入
- ②教授会の役割の明確化
- ③学校法人和泉短期大学の組織規程の改正
 - ・各委員会規程の明確化
 - ・専攻科介護福祉専攻委員会を教務委員会の下に置く

2) 第三者評価を受けての改善

- ・昨年度の第三者評価を受けて、本学の「教育の質の保証と向上」を目指し、教育・研究、学生支援等の改善に努める
- ・3つのポリシーの明確化
(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)

3) 外部資金の調達の推進

- ①文部科学省の補助金事業「大学教育再生加速プログラム」への応募
- ②文部科学省の補助金事業「私立大学等改革支援事業」の獲得
- ③相模原市の補助金事業の実施

2015年度から3年間、「子育て家庭による地域子育て相互支援育成事業」を行う

4) 教育・研究活動の強化

- ①学長裁量経費の配分
 - ・和泉短期大学共同研究への支援
 - ・本学の教育改革に取り組む活動への支援
- ②研究活動に係る不正行為の防止
- ③IR委員会の設置

5) 学生生活の向上にむけての支援

①入学前教育の充実

②保護者との連携

- ・成績一覧表を送付
- ・保証人会の開催

③退学、除籍、休学、留年学生の状況改善

- ・離学者改善検討委員会を中心に、学生の退学・除籍・休学等の改善に向けての要因の調査と分析
- ・奨学金給付制度の充実

④学内ワークスタディ制度の設置

経済的事情を抱える学生を対象に支援

⑤FD&SD（ファカルティ&スタッフ）の強化

- ・「授業に対する授業評価」の改善
- ・研修会の開催

6) 卒業生の保育就業力向上への取り組み

幼稚園教諭免許状のみを有する者に保育士取得特例講座を開催

7) 入試・広報の改善と・高大接続の強化

アドミッションポリシーと入試制度の明確化

8) 地域との連携

①地域連携推進センターの開設と運営

②相模原市と市内7大学との包括連携協定の具体化

③国際ソロプチミスト相模との連携

9) 和泉短期大学父母会・同窓会いずみ・後援会との連携強化

①給付奨学金による学生支援

②会報発行（父母会会報・会報「いずみ」・後援会便り）

③和泉祭への参加

(1) 学事予定

2015 年	3 月	31 日 (火)	2 年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング
	4 月	1 日 (水)	入学式、全教員打合せ会
		2 日 (木)	1 年、専攻科前期オリエンテーション①、新入生研修会 2 年、専攻科健康診断、2 年教科書販売
		3 日 (金)	1 年、2 年新入生歓迎大会 専攻科前期オリエンテーション②、教科書販売
		6 日 (月)	1 年前期オリエンテーション②、2 年、専攻科前期授業開始
		7 日 (火)	1 年健康診断、教科書販売
		8 日 (水)	1 年前期授業開始
		13 日 (月)	イースター特別礼拝
	5 月	11 日 (月)	創立記念礼拝
		13 日 (水)	第 1 回創立記念フェア 実習連絡会 (幼稚園)
		15 日 (金)	保育実習 I 成績報告書締切日、高校教員対象進学説明会①
		20 日 (水)	高校教員対象進学説明会②
		25 日 (月)	ペンテコステ礼拝
	6 月	12 日 (金)	市内高校保育・福祉担当教員研究会
		15 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園) 〈7 月 4 日 (土) まで〉 1 年、専攻科避難・防災訓練
		22 日 (月)	専攻科介護実習 I 〈6 月 29 日 (月) まで〉
	7 月	8 日 (水)	かながわ高齢者福祉研究大会
		11 日 (土)	iA0 入試 I 期 1 回目
		18 日 (土)	iA0 入試 I 期 2 回目
		25 日 (土)	iA0 入試 I 期 3 回目
		27 日 (月)	前期修了感謝礼拝
		29 日 (水)	1 年、専攻科前期授業終了
		30 日 (木)	1 年、専攻科前期定期試験 〈31 日 (金) まで〉
		31 日 (金)	2 年前期授業中断
	8 月	1 日 (土)	夏期休業開始 〈8 月 30 日 (日) まで〉
		7 日 (金)	iA0 入試 II 期 1 回目
		18 日 (火)	iA0 入試 II 期 2 回目
		19 日 (水)	1 年、専攻科成績報告書締切日
		24 日 (月)	iA0 入試 II 期 3 回目
		25 日 (火)	インターナショナル・フィールドワーク海外実習 〈8 月 29 日 (土) まで〉
		27 日 (木)	おもちゃインストラクター養成講座 1 回目 〈2 回目 28 日 (金)〉
		30 日 (日)	夏期休業終了
		31 日 (月)	1 年、専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、教科書販売、再試験発表、2 年前期授業再開

9 月	1 日 (火)	専攻科後期授業開始
	3 日 (木)	1 年、専攻科前期再試験〈4 日 (金) まで〉
	4 日 (金)	2 年前期授業終了
	7 日 (月)	1 年後期授業開始、2 年前期定期試験〈8 日 (火) まで〉
	9 日 (水)	市内高校長との教育研究会
	14 日 (月)	2 年現場実習 (保育所・児童福祉施設)〈10 月 2 日 (金) まで〉
	24 日 (木)	2 年成績 (教育実習含む) 報告書締切日
	26 日 (土)	iA0 入試Ⅲ期 1 回目
10 月	3 日 (土)	2 年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 前期再試験発表、教科書販売 iA0 入試Ⅲ期 2 回目
	5 日 (月)	2 年後期授業開始
	7 日 (水)	専攻科実習連絡会
	17 日 (土)	専攻科入試 i 日程
	21 日 (水)	第 2 回サンクスギビングフェア
	23 日 (金)	学生祭週間〈26 日 (月) まで〉
	24 日 (土)	いずみ祭、個別相談会⑧、⑨〈25 日 (日) まで〉
	31 日 (土)	図書館主催行事
11 月	3 日 (火)	入学者選考日 [指定校、卒業生・在学生家族、キリスト者推薦、専攻科 (A 日程)]
	4 日 (水)	専攻科介護実習Ⅱ〈12 月 5 日 (土) まで〉
	16 日 (月)	召天者記念礼拝
	18 日 (水)	実習連絡会 (保育所)、専攻科帰校日
	21 日 (土)	公募・専門高校推薦、社会人特別選抜入試
	30 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
12 月	7 日 (月)	保育実習Ⅱ成績報告書締切日
	9 日 (水)	実習連絡会 (児童養護施設)
	12 日 (土)	iA0 入試Ⅳ期 (12 月)、専攻科 B 日程入試
	16 日 (水)	第 3 回クリスマスフェア
	21 日 (月)	クリスマス礼拝
	23 日 (水)	冬期休業開始〈2016 年 1 月 6 日 (水) まで〉
2016 年	1 月 6 日 (水)	冬期休業終了、新年礼拝
	7 日 (木)	後期授業再開
	13 日 (水)	第 4 回グラデュエーションフェア 1 年後期授業終了
	14 日 (木)	1 年後期定期試験〈15 日 (金) まで〉
	18 日 (月)	1 年現場実習 (保育所・児童養護施設)〈2 月 2 日 (火) まで〉
	23 日 (土)	iA0 入試Ⅳ期 (1 月)
	25 日 (月)	1 年科目成績報告書締切日

2 月	3 日 (水)	一般入試、専攻科 C 日程入試
	4 日 (木)	2 年後期定期試験①
	5 日 (金)	1 年後期再試験発表
	6 日 (土)	2 年後期定期試験②、専攻科後期定期試験①
	8 月 (月)	後期修了感謝礼拝、2 年、専攻科後期授業終了
	9 日 (火)	2 年追・再実習追加分 (幼稚園) 〈10 日 (水)、12 日 (金) まで〉 専攻科後期定期試験②
	15 日 (月)	1 年保育実習 (児童福祉施設・保育所) 〈3 月 1 日 (火) まで〉 2 年追再実習 〈3 月 1 日 (火) まで〉 iAO 入試Ⅳ期(2 月)
	17 日 (水)	2 年、専攻科成績報告書締切日、専攻科卒業共通試験
	18 日 (木)	専攻科卒業試験講習会 〈19 日 (金) まで〉
	22 日 (月)	2 年、専攻科後期再試験発表 専攻科卒業共通試験再試験
	29 日 (月)	2 年、専攻科後期再試験 iAO 入試Ⅳ期(3 月)、専攻科 D 日程入試
3 月	2 日 (水)	2 年追再実習者再試験
	3 日 (木)	1 年後期再試験 〈4 日 (金) まで〉
	14 日 (月)	2 年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝・修了証書授与式予行練習
	15 日 (火)	2 年卒業証書・学位記授与式 専攻科修了証書授与式
	29 日 (火)	おもちゃインストラクター養成講座 〈30 日 (水) まで〉
	31 日 (木)	新 2 年前期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング

(2) 実習

2015 年	6 月	15 日 (月)	～7 月 4 日 (土)	2 年幼稚園
	6 月	22 日 (月)	～6 月 29 日 (月)	専攻科介護実習Ⅰ
	9 月	14 日 (月)	～10 月 2 日 (金)	2 年保育所・児童福祉施設
	11 月	4 日 (水)	～12 月 5 日 (土)	専攻科介護実習Ⅱ
2016 年	1 月	18 日 (月)	～ 2 月 2 日 (火)	1 年保育所・児童福祉施設
	2 月	9 日 (火)	10 日 (水)、12 日 (金)	2 年追再実習追加分 (幼稚園)
		15 日 (月)	～ 3 月 1 日 (火)	1 年保育所・児童福祉施設、2 年追再実習

(3) 2016 年度 児童福祉学科入試日程

2016 年度 児童福祉学科 入試日程

IAO 入試Ⅰ期

2015 年 6 月 1 日(月)～7 月 4 日(土)16 時 34 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 7 月 11 日(土) 午前・午後	1 回 目 試 験
2015 年 6 月 1 日(月)～7 月 11 日(土)16 時 41 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 7 月 18 日(土) 午前・午後	2 回 目 試 験
2015 年 6 月 1 日(月)～7 月 18 日(土)16 時 48 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	3 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 7 月 25 日(土) 午前・午後	3 回 目 試 験
2015 年 7 月 27 日(月) 12 時 15 分	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2015 年 7 月 28 日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2015 年 8 月 1 日(土)～8 月 26 日(水) 26 日間	出 願 手 続 期 間
2015 年 8 月 31 日(月) 12 時 15 分	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 9 月 1 日(火)	合 格 通 知 発 送 日
2015 年 9 月 2 日(水)～9 月 11 日(金) 10 日間	入 学 手 続 期 間

IAO 入試Ⅱ期

2015 年 7 月 1 日(水)～8 月 1 日(土)16 時 32 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 8 月 7 日(金) 午前・午後	1 回 目 試 験
2015 年 7 月 1 日(水)～8 月 7 日(金)16 時 38 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 8 月 18 日(火) 午前・午後	2 回 目 試 験
2015 年 7 月 1 日(水)～8 月 17 日(月)16 時 48 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	3 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 8 月 24 日(月) 午前・午後	3 回 目 試 験
2015 年 8 月 31 日(月) 12 時 15 分	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2015 年 9 月 1 日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2015 年 9 月 2 日(水)～9 月 18 日(金) 17 日間	出 願 手 続 期 間
2015 年 9 月 30 日(水) 14 時 50 分	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 10 月 1 日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2015 年 10 月 2 日(金)～10 月 12 日(月) 11 日間	入 学 手 続 期 間

iA0 入試Ⅲ期

2015 年 8 月 1 日(土)～9 月 19 日(土)16 時 50 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 9 月 26 日(土) 午前・午後	1 回 目 試 験
2015 年 8 月 1 日(土)～9 月 26 日(土)16 時 57 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2 回 目 試 験 申 込 期 間
2015 年 10 月 3 日(土) 午前・午後	2 回 目 試 験
2015 年 10 月 5 日(月) 12 時 15 分	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2015 年 10 月 6 日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2015 年 10 月 7 日(水)～10 月 16 日(金) 10 日間	出 願 手 続 期 間
2015 年 10 月 28 日(水) 14 時 50 分	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 10 月 29 日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2015 年 10 月 30 日(金)～11 月 9 日(月) 11 日間	入 学 手 続 期 間

iA0 入試Ⅳ期(12 月)

実施するか否かを 2015 年 11 月 2 日(月)10 時にホームページで発表する。

2015 年 11 月 9 日(月)～12 月 5 日(土)16 時 27 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2015 年 12 月 12 日(土) 午前	試 験
2015 年 12 月 16 日(水) 14 時 50 分	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2015 年 12 月 17 日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2015 年 12 月 18 日(金)～1 月 15 日(金) 29 日間	出 願 手 続 期 間
2016 年 1 月 27 日(水) 14 時 50 分	合 否 判 定 教 授 会
2016 年 1 月 28 日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2016 年 1 月 29 日(金)～2 月 8 日(月) 11 日間	入 学 手 続 期 間

iAO入試Ⅳ期(1月)

実施するか否かを2015年12月1日(火)10時にホームページで発表する。

2016年1月5日(火)～1月16日(土)16時 12日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2016年1月23日(土) 午前	試 験
2016年1月27日(水) 14時50分	出願許可判定教授会
2016年1月28日(木)	出願許可通知発送日
2016年1月29日(金)～2月12日(金) 15日間	出 願 手 続 期 間
2016年2月24日(水) 12時15分	合 否 判 定 教 授 会
2016年2月25日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2016年2月26日(金)～3月7日(月) 11日間	入 学 手 続 期 間

AO入試Ⅳ期(2月)

実施するか否かを2016年1月8日(金)10時にホームページで発表する。

2016年2月1日(月)～2月8日(月)16時 8日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2016年2月15日(月) 午前	試 験
2016年2月17日(水) 12時15分	出願許可判定教授会
2016年2月18日(木)	出願許可通知発送日
2016年2月19日(金)～2月26日(金) 8日間	出 願 手 続 期 間
2016年3月2日(水) 12時15分	合 否 判 定 教 授 会
2016年3月3日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2016年3月4日(金)～3月9日(水) 6日間	入 学 手 続 期 間

iAO入試Ⅳ期(3月)

実施するか否かを2016年1月8日(金)10時にホームページで発表する。

2016年2月9日(火)～2月17日(水)16時 9日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2016年2月29日(月) 午前	試 験
2016年3月2日(水) 12時15分	出願許可判定教授会
2016年3月3日(木)	出願許可通知発送日
2016年3月4日(金)～3月11日(金) 8日間	出 願 手 続 期 間
2016年3月16日(水) 14時50分	合 否 判 定 教 授 会
2016年3月17日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2016年3月18日(金)～3月23日(水) 6日間	入 学 手 続 期 間

指定校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦

2015年10月8日(木)～10月23日(金)16時 16日間 郵送は21日(水)消印有効。窓口は23日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2015年10月28日(水) 14時50分	打 合 せ 教 授 会
2015年11月3日(火) 午前及び午後	入 学 選 考 日
2015年11月3日(火) 午後	判 定 教 授 会
2015年11月4日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2015年11月5日(木)～11月16日(月) 12日間	入 学 手 続 期 間

公募推薦、専門高校推薦、社会人特別選抜

2015年10月19日(月)～11月13日(金)16時 26日間 郵送は11日(水)消印有効。窓口は13日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2015年11月21日(土) 午前	入 学 選 考 日
2015年11月21日(土) 時間未定	判 定 教 授 会
2015年11月22日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2015年11月23日(月)～12月4日(金) 12日間	入 学 手 続 期 間

一般入試

2016年1月7日(木)～1月29日(金)16時 23日間 郵送は27日(水)消印有効。窓口は29日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2016年2月3日(水) 午前	入 学 試 験 日
2016年2月3日(水) 時間未定	判 定 教 授 会
2016年2月4日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2016年2月5日(金)～2月17日(水) 13日間	入 学 手 続 期 間

3. 専攻科

2015年度 専攻科介護福祉専攻の事業計画

1. 教育内容の充実を図る

(1) 教育の充実

- ① 専任教員担当科目の授業内容について、相互の連携を図る
- ② 児童福祉学科専任教員および非常勤講師の担当科目について、教員相互の連携を図る

(2) 実習の充実

- ① 施設見学実習の実施
- ② 学生個々に応じた実習指導の充実
- ③ 実習巡回指導の充実
- ④ 事例研究の指導
- ⑤ 事例集の作成
- ⑥ 実習連絡会の開催

2. 就業力支援をする

- (1) キャリアファイルへの取り組みと評価
- (2) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
- (3) 専攻科修了生による職場体験の発表
- (4) 特別講義の実施

3. 専攻科入学者数の増加を図る

- (1) 専攻科学生による学内向けの宣伝（実習体験の様子を表現するなど）
- (2) 事例発表会の開催により、児童福祉学科の学生に対して参加を促すことにより、広報活動とする
- (3) 入試広報委員会の協力を得て、指定校訪問

4. 地域貢献活動

- (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修に対して協力し、介護職員のスキルアップ支援をする
- (2) 相模原市・市民大学への協力をする

5. 卒業生への再教育支援の検討をする

2016 年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

i 日程(学内、卒業見込者対象)

2015 年 10 月 2 日(金)～10 月 13 日(火)16 時 12 日間 郵送は 9 日(金)消印有効。窓口は 13 日(火)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2015 年 10 月 17 日(土) 午前	入 学 試 験 日
2015 年 10 月 19 日(月) 12 時 15 分	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 10 月 20 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2015 年 10 月 21 日(水)～11 月 9 日(月) 20 日間	入 学 手 続 期 間

A 日程

2015 年 10 月 14 日(水)～10 月 23 日(金)16 時 10 日間 郵送は 21 日(水)消印有効。窓口は 23 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2015 年 11 月 3 日(火) 午前	入 学 試 験 日
2015 年 11 月 3 日(火) 午後	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 11 月 4 日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2015 年 11 月 5 日(木)～11 月 16 日(月) 12 日間	入 学 手 続 期 間

B 日程

2015 年 11 月 13 日(金)～12 月 2 日(水)16 時 20 日間 郵送は 30 日(月)消印有効。窓口は 2 日(水)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2015 年 12 月 12 日(土) 午前	入 学 試 験 日
2015 年 12 月 16 日(水) 14 時 50 分	合 否 判 定 教 授 会
2015 年 12 月 17 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2015 年 12 月 18 日(金)～12 月 25 日(金) 8 日間	入 学 手 続 期 間

C 日程

2016 年 1 月 21 日(木)～1 月 29 日(金)16 時 9 日間 郵送は 27 日(水)消印有効。窓口は 29 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2016 年 2 月 3 日(水) 午前	入 学 試 験 日
2016 年 2 月 3 日(水) 時間未定	合 否 判 定 教 授 会
2016 年 2 月 4 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2016 年 2 月 5 日(金)～2 月 17 日(水) 13 日間	入 学 手 続 期 間

D 日程

2016 年 2 月 15 日(月)～2 月 26 日(金)16 時 12 日間 郵送は 24 日(水)消印有効。窓口は 26 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2016 年 2 月 29 日(月) 午前	入 学 試 験 日
2016 年 3 月 2 日(水) 12 時 15 分	合 否 判 定 教 授 会
2016 年 3 月 3 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2016 年 3 月 4 日(金)～3 月 11 日(金) 8 日間	入 学 手 続 期 間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。2015 年度委員会メンバーは、伊藤忠彦、片山知子、山本正司、深町和哉、今泉治子、芹澤薫

3. 活動内容

3-1 年度聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年度聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2015 年度は「何事も愛をもって行いなさい」（コリントの信徒への手紙 1 第 16 章 14 節）とする。

3-2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるようともに礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

本学の建学の精神「愛と奉仕」をともに学ぶことを目的とし、毎週月曜日にチャペルアワーを計画し実施する。始業礼拝、卒業・修了感謝礼拝を除き、年間 30 回のチャペルアワーを開催する。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

- 1) イースター礼拝（4 月 13 日）
- 2) 創立記念礼拝（5 月 11 日）（キャリアデザイン I）
- 3) 召天者記念礼拝（11 月 16 日）
- 4) クリスマスツリー点火祭（11 月 30 日）
- 5) クリスマス礼拝（12 月 21 日）（キャリアデザイン I）
- 6) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 14 日）

3-5 新入生研修会

4 月 2 日に新入生研修会を実施する。レクチャー礼拝と講演を通して、今後の学びの礎を築く。（講師：久米小百合氏）

3-6 クリスマスコンサート（子育てサロンはっぴいと共催）

12 月 12 日に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 チャイルド・ファンド・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金をチャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシッ

プログラム、及び全国の児童福祉施設等の活動支援のために送る。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F.)

聖書に親しみ、創作や発表の企画を通して学生同士の交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともに音楽に親しむとともに、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕を中心に活動する。練習しチャペルアワー、学内諸行事にて奉仕する。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」と連携し、科目担当者・履修生によるチャペルアワー、特別礼拝等での奉仕演奏、クリスマス関連行事での演奏を行う。また学外からの依頼演奏にも適宜対応する。

3-11 「教えとともに」(チャペルメッセージ集)作成準備

2014年度に作成した「教えとともに」(チャペルメッセージ集Ⅰ)の続編作成に向け、2014年度後期以降のチャペルアワーでの説教・奨励について、原稿を依頼・収集する。

3-12 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

4. 2015年度の重点課題

4-1 チャペルアワーの充実

チャペルアワーは出席することが当たり前という雰囲気を作ることを目指し、学生に浸透させていく。チャペル委員から学生への呼びかけを積極的に行えるよう、チャペル委員の役割について周知し、それぞれの役割を責任をもって遂行するよう促していく。また、キャリアカルテファイルの活用や、他教員の協力を得て授業等で働きかけていくことを通し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人一人が記録として残す取り組みを継続する。

4-2 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員、学生聖歌隊、I. C. F. の活動を安定的に継続していくことをめざす。さらに、活動を通して神様の恵みを知り、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように、促す。

4-3 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教主義学校として、地域への貢献度を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、授業科目「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」の学外での依頼演奏などを通じ、地域にあるキリスト教主義学校として、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研 究 活 動

佐 藤 守 男 教授

【研究課題】 ・ 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究
・ 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について

【教育課題】 ・ 造形表現等の教材研究

【学会参加予定】 個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

伊 藤 忠 彦 特任教授・チャプレン

【研究課題】 ・ 「ジョン・ウエスレーとメソジスト教会」
・ 「使徒言行録に記されたパウロの伝道」

【教育課題】 ・ 「学生が、チャペルとキリスト教関連の授業を通じて、保育、教育、
福祉を必要とする人々の力になる者に成長することが課題である」

【学会参加予定】 ・ キリスト教社会福祉学会・日本キリスト教学会の会員であるが、
参加予定はない。

【社会的活動】 ・ 社会福祉法人 白十字会林間学校理事長
・ 社会福祉法人 基督教児童福祉会理事
・ 社会福祉法人 さがみ愛育会理事
・ 社会福祉法人 悠朋会理事

杉 山 佳 子 特任教授

【研究課題】
「子育て家族の支援とソーシャルワーク」
「認知症高齢者と家族への支援方法について」

【教育課題】
保育士養成教育における相談援助

【学会参加予定】
日本介護福祉学会
日本社会福祉学会
日本社会病理学会
日本ソーシャルワーカー協会

【社会的活動】
豊島区立東部子ども家庭支援センター 専門相談員
社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念ホーム 監事
社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 理事
日本ソーシャルワーカー協会 監事

鈴木 敏彦 教授

- 【研究課題】 ・戦前期・経済保護事業に関する史的研究（不良住宅地区改良法を中心に）
・福祉サービス利用者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究（障害分野を中心に）
- 【教育課題】 ・短期大学における入学前教育・卒後教育のあり方について
・短期大学における退学防止に関する方策について
・児童福祉専門職養成における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について
- 【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、大学教育学会、日本社会福祉教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、成年後見法学会、社会保障法学会、日本高齢者虐待防止学会 ほか

武 石 宣 子 教授

- 【研究課題】 ・リトミック教育(リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏を含む)に関する研究
・音楽療法（乳幼児及び高齢者）に関する研究
・プラスチック・アニメの研究
・身体表現を通じた音楽理解への可能性
・保育の表現技術について
・カリキュラム研究《リトミック、器楽（ML・ピアノ）、保育内容（表現）》
・MLの教材研究
・子どもの歌の簡易伴奏法の研究（グレード別アレンジ法）
- 【教育課題】 ・リトミック教育の創造的遊びへのアプローチ
・器楽(ML・ピアノ)の授業《ML：子どもの歌、鍵盤楽器による基礎技能》
・親子リトミック（親子ふれあい遊び）の指導方法の充実
・教育法：《ダルクローズ・リトミック》

【所属学会等】

- 大学教育学会 ○日本保育学会 ○日本音楽教育学会
○日本ダルクローズ音楽教育学会 ○大学音楽教育学会
○日本乳幼児教育学会 ○日本キリスト教社会福祉学会
○初年次教育学会 ○日本レジャー・レクリエーション学会
○全日本ピアノ指導者協会 ○アクティビティ・サービス協議会
○幼児音楽研究会

櫻 井 奈津子 教授

- 【研究課題】 ・家庭養護推進の課題
「養育里親」「小規模住居型児童養育事業」を対象とした支援活動において、児童相談所、児童福祉施設、里親支援機関での支援活動に協力し、里親支援に

携わるワーカーの養成についての研究活動を行う。

児童相談所における養子縁組あっせんの状況を調査し、子どものパーマネンスを保障する養子縁組のあり方について研究を行う。

里親支援活動への協力を通して、里親のニーズを探る。

- ・要保護児童への自立支援

NPO神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業、里親里子の交流事業等の活動への参加を通し、児童養護施設入所児童、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、自立支援への研究を行う。

【教育課題】

- ・担当科目（社会的養護の原理・社会的養護の内容・児童家庭福祉・子どもと暮らし）の内容充実。

学生にとって具体的に理解しやすい教材（パワーポイント、ビデオ、資料等）の用とタイムリーな話題の提供を通して、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題について理解を促してゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を送る権利」を保障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解すると共に、相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

保育実習Ⅰ（児童福祉施設）の実習登録と重なる時期の履修のため、児童福祉施設の役割と機能、児童福祉施設における保育士の役割について学生が自ら調べ理解できるよう促していく。

「社会的養護の内容」では、子どもと生活を共にし、生活の中での援助をめざす保育者としての子ども理解を促し、併せて子どもにとってより望ましいケアのあり方を、グループ討論やグループでの作業を通して学び、保育実習Ⅰ（児童福祉施設）への事前学習と連動させて授業を展開する。

「児童家庭福祉」では、子どもやその家族に対する理解と、子どもの権利擁護の視点からの、児童家庭福祉サービスのあり方について学びを深め、学生が「援助者」として望ましい子ども観を確立していけるよう働きかけてゆく。

「子どもと暮らし」では、子どもが日々の生活、保育を体験することによって育まれる社会性を意識しながら、保育場面での展開（指導や援助）を考えて、実践的な学びを深める。

開講時期が後期なので、クリスマス・正月を意識して教材を提供し、また選択科目であるため、履修者の状況・希望Ⅱより柔軟性を持たせたい。近隣施設への見学も取り入れていく。

- ・実習指導の充実。

実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実習前の準備や実習後のフォローを丁寧に行い、卒業後の進路支援につなげてゆく。担当グループの学生とのコミュニケーションを図り、とくに単位修得が困難な学生への個別対応を

丁寧に行う。

- ・教科書等教材作成

社会的養護、児童家庭福祉分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

【社会活動】

- ・児童養護施設、神奈川県内里親会等との連携により、里親及び里親支援に携わる職員への研修活動に協力する。
(特定非営利活動法人東京養育家庭の会 東京都委託事業平成27年度里親認定前研修 講師、相模原市養育里親更新研修 講師 等)
- ・NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトが行う里親研修活動、高校生の里子を対象とした自立支援活動に協力する。
- ・相模原市における児童福祉活動への協力（社会保障審議会児童福祉専門分科会等の委員会活動・養育里親更新研修等への協力）
- ・横浜市における児童福祉活動への協力（横浜市児童福祉審議会委員）
- ・東京都八王子児童相談所里親委託等推進委員会委員
- ・第三者委員活動
社会福祉法人あすはの会
社会福祉法人恩賜財団神奈川同胞援護会グリーンヒル相模原（母子生活支援施設）

【参加予定学会】 日本子ども家庭福祉学会（関西学院）

日本子ども虐待防止学会（新潟）

松 浦 浩 樹 教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と中心性について」（その3）継続研究
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
3. キリスト教保育の現状と課題
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究（～2015年まで）
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012年まで）
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題
8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題（テーマ「施設化する生」の継続的研究）

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ6、7に関して、学内で関与する学生、保護者（親子）との実際的ななかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

【教育課題】

- ・短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相関させるプログラムの開発と工夫に努力する。
- ・「キリスト教保育」、「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究にお

ける実地的なデータ（事例・ビデオ）を学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。

【参加予定学会等】

- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会
- ・ 日本キリスト教教育学会
- ・ 子どもと保育総合研究所・所員研究会
- ・ OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
- ・ 幼児保育実践研究会
- ・ キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
- ・ 保育実践研究委員会・副委員長
- ・ 幼児教育養成課程研究会(文科省重点課程研究)

【地域貢献】

- ・ キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
- ・ 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
- ・ 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
- ・ 保育所指定管理者選定・および第三者評価委員(東京・荒川区、座間市)

【その他委員会等】

- ・ 教務委員会の部長として、これまでの歴史を尊重しつつ、より豊かな「教育—学習」環境を整備する。2014 年度導入した 1.2 年生の共同授業(保育実習・教育実習)の有機的展開をさらに工夫し、「2 年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1 年生の学習意欲や動機を高める場の保証を他の講義・授業においても模索する。
- ・ 教務委員会の下部委員会として、キャリアデザインセンター委員会・キャリアファイル運営委員会・学生 F D 委員会・子育て支援プログラム運営委員会・専攻科介護福祉専攻委員会を有機的に統括し、特に科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」と「保育実習 各科目」、そして子育て支援での取り組みが学生の実地的な職業教育として、系統的に繋がりをもったものとして位置付くようカリキュラムの関連付けを強化していく。またこれらの委員会が相互に連携を図りながら学生の学びを支援していくことと同時に、離学者改善検討委員会においては、学生部との連携を強化しつつ、学習以外の支援の可能性を探っていく。
- ・ 「保育就業力支援プログラム」の開発担当者として、キャリアファイル運営委員を基にキャリアファイル等の教材開発・更新、あるいは今後の委員会運営と改善を執り行う。
- ・ キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献(連携)の新たな可能性を探る。これまで地域の親子を中心に貢献を図ってきたが、新たに「高齢者」を視点においた「地域に根差した」キャンパス構想を提案していく。
- ・ キリスト教学校として、宗教部と連携を強め、建学の精神（アドミッションポリシー）に根差した総合的・系統的学び、特にキリスト教精神の理解に基づく職業召命観の豊かな形成をめざし、キリスト教関連科目はもとより、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業においてのカリキュラム内容を工夫することに努める。

【研究課題】

- ① 継続の研究課題である、「乳幼児の“あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得プロセスに関する研究」について、執筆したテキストブックの内容を実証する視点にたち、保護者支援と学生支援に関する研究と実践をおこなう。
- ② 文科省が提示した「幼児期運動指針」の浸透状況の把握と、今後の課題の模索。

＊協力園と団体（予定）：神奈川県内の保育所・幼稚園・冒険遊び場等

【教育課題】

- ① 保育内容『健康』：ア、1年生の履修科目である点を鑑み、特に前期履修学生に対しては興味喚起のためトピックスを多く提示し、学びの導入として、自らの健康に関する意識喚起を促す。イ、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫を重ねる。場合によっては、前期の到達目標をスリム化する。ウ、各回の授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布等により学生の知識の定着をはかる。エ、本学学生の理解促進のための伝達力を磨く。オ、キャリア・ファイル・カリの健康チェック欄と連動を図る。
- ② 乳幼児体育：我国の「保育現場における運動あそびの指導」は、体育専攻の指導者が行うケースが多い中、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に運動あそびの指導が出来る事」を目指し、引き続き「実践と理論に強い保育者」を育てる授業をおこなう。「ヒトが育つために、何故“運動あそび”が必要不可欠なのか」という視点に立って、授業構成の初期は乳児対象・中盤以降は幼児対象とし、仕上げには、部分指導案や簡単な年間プログラム作成もおこなう。また、日本発育発達学会が設けた「認定資格『幼少年体育指導士』」の内容や、文部科学省が作成した幼児期運動指針も取り入れながら、“学生自身が「からだでわかる」”授業を展開する。
- ③ 体育（実技）：学生に対し、保育者に必要な基本的な体力と、併せて、体力の基本となる、自身の日常生活について、自己課題をもつ事を恒常的に勧める。また、引き続き、体育実技担当者全員で、養成校としての体育科目のあり方を踏まえた教材の検討をすすめる。実施場所について、恵まれた教育環境（体育館・戸外）を十分に生かす授業内容を計画する。「体育（理論）」：現代健康課題・健康観を提示したうえで、学生自身が一生にわたって「自身を生かす体力の視点とは何か」について考える機会を提供する。
- ④ 保育・教育実践演習：担当3年目となる中、新しい授業担当者の特徴が生かせる授業を展開したい。引き続き、社会人として保育者として巣立っていく学生に対し、多面的な仕上げのサポートをおこなう。
- ⑤ 実習指導・グループ担任：生活全般や現場実習に対して強い不安感や困難を抱く学生が増加する中、可能な範囲で学生の気持ちを汲み取る努力をしたい。自身の重要課題として、今の日本の社会情勢を把握することや、若い世代の文化にも興味をもちつつ、自身のストレスを上手くコントロールする術の習得し、ひいては、その術を学生と共有する力をつけたい。1年生終了頃には、概ね学生らしい自覚を持った日々の生活が出来るような支援をしたい。心身ともに充実した生活を営める大人になるようなサポートに努めたい。

【主な社会活動】

- ・「日本体育学会」平成 27・28 年度代議員（専門領域選出） ＊専門領域は、「発育発達」領域
- ・「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
- ・「神奈川県相模原市男女協同参画課諮問委員会」会長
- ・「神奈川県相模原市青少年問題協議会」会長
- ・「神奈川県相模原市中央区区民会議」議長
- ・「子どものからだと心連絡会議」全国委員
- ・「社会福祉法人 歩育の会」 理事
- ・「NPO法人 セルフケア総合研究所」 理事

【参加予定学会】

- ・ 日本保育学会（5 月）
- ・ 日本小児保健学会（6 月）
- ・ 日本体育学会（9 月）
- ・ 子どものからだと心・全国研究会議（12 月）
- ・ 日本発育発達学会（3 月）

横 川 剛 毅 准教授

- 【研究課題】 ・重症心身障がいのある人の支援に関する評価
・知的障がいのある人の支援者に求められる視覚支援
- 【教育課題】 ・対応が難しい子への適切に向き合うことができる保育者・支援者の養成
・障がいに関する正しい知識をもち、実践できる保育者・支援者の育成
- 【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本地域福祉学会

矢 野 由佳子 准教授

- 【研究課題】 ・保育者のメンタルヘルスに関する調査研究
・乳幼児の発達と心理臨床に関する文献調査
- 【教育課題】 ・子どもや保護者の心理に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接することのできる保育者の育成
・心身の健康管理に留意できる保育者の育成
- 【学会参加予定】 日本発達心理学会 日本心理臨床学会 他

平田 美智子 准教授

- 【研究課題】 ・国際養子縁組に関する研究（平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金事業「国内外における養子縁組の現状と子どものウェルビーイングを考慮したその実践手続きのあり方に関する研究」研究代表者林康弘の分担研究者）
・養子縁組を含む里親支援（里親支援専門相談員の研修）に関する調査研究（「養子と里

親を考える会」のメンバーで日本財団に研究費助成申請中)

- ・地域子育て支援拠点における母親のエンパワーメントの研究 (個人研究)
- ・母子生活支援施設における利用者のニーズを探る調査 (個人研究)
- ・アジアにおける児童労働・女子教育・子どもの貧困 (個人研究)
- ・ハーグ条約 (子の奪取) の実施状況に関する研究 (個人研究)

【教育課題】

- ・キャリアデザイン教育の推進
- ・アクティブ・ラーニングを使った授業運営
- ・学生の児童虐待防止オレンジリボン・キャンペーン運動の推進
- ・学生のボランティア活動支援 (北里大学との「はっぴいアクアリウムプロジェクト」)

【学会参加予定】

- ・ IFSW (国際ソーシャルワーカー連盟) アジア太平洋地域会議・総会 (10 月20～24 日、タイ国、バンコク) (発表予定)
- ・ 日本保育学会 (5 月 9/10 日、相山女学園大学) (ポスター発表申し込み)
- ・ 日本社会福祉学会 (9 月 20/21 日、久留米大学) (発表予定)

【地域貢献】

- ・ 相模原市と協働で児童虐待防止オレンジリボン運動 (11 月) 推進 (学生と)
- ・ 相模原市の障がい者施設と協働で学生・障がい者の交流 (松が丘園とパン販売)
- ・ 相模原中央支援学校と学生の交流事業 (7 月、ふれあい事業にボランティアサークルが参加)
- ・ 相模原市・神奈川県中央児童相談所の里親支援 (学生の保育ボランティア)
- ・ 横浜市地域子育て支援拠点 (NPO 法人グリーンママ) 支援 (専門相談員)

【社会的活動】

- ・ 国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) アジア太平洋地域 役員 (会計)
- ・ 横浜市地域子育て支援拠点 (NPO 法人グリーンママ) 理事・専門相談員
- ・ 「養子と里親を考える会」(研究会)理事
- ・ 座間市地域包括支援センター・地域密着型運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会 委員 (学識経験者)
- ・ 大和市総合政策審議会委員
- ・ 母子生活支援施設さくら荘第三者委員
- ・ さくらの森保育園第三者委員
- ・ 東京都養育里親研修講師
- ・ (社福)相模原市社会福祉事業団 福祉研修センター研修講師
- ・ (社福)相模原市社会福祉事業団 福祉研修センター意見交換会委員

山 本 美貴子 准教授

【研究課題】

- ・ 自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究
- ・ 「保育の中での音楽に関わる授業研究」
学生の意識調査結果の分析・考察を通して、学生がどのように子どもの表現の

概念を学ぶかを探る

- ・和泉短大生が取り組む実習や採用試験のピアノ・音楽表現の課題について、傾向を探る調査、学生支援ユニットとの協同での実施を探る
- ・子どもの表現を育むため「保育者研修」について
園内研修内容を省察し、子どもとの生活や遊びの中の音楽や表現の魅力に気づき、さらに広げたり深めたりするための 保育者自身の感性・表現力・レポーتریや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探る

【教育課題】

- ・「保育音楽」の授業内容と方法について
前期 子どもの遊び歌・ゲームなどの演習と、後期 遊び歌の創作演習
課題とのより密接で効果的な展開を探る。2014 年度も CDC を利用し、より実践を意識した創作発表活動を実施できたので、期末課題などを参考に学生の学習成果・感想と照らし省察する。
- ・保育内容「表現」の授業内容と方法について
昨年までの学生の反応・各教員の省察に基づき、非常勤担当教員との共通シラバスにより子どもの表現行動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する授業を展開できた。非常勤教員の協力により、音楽・表現に関する教育内容を活発に討議しつつ充実した授業実践を行えているので、引き続き、課題設定・教室環境の整備・教材準備方法を改善し取り組んでいきたい。
- ・「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について
2014 年度は 19 名の隊員を得られ宗教部と連携した一連のクリスマス行事での賛美に大きな手応えを得られた。参加学生は積極的・主体的に活動を楽しみ、夏休み・11月の集中練習参加率も非常に高かった。宗教部のご協力により演奏映像を活用して短時間だが効果的な練習が実施できた。
しかし、例年クリスマス後1年生の参加者が得られる1月期に、1年生の実習時期が早まり新しい参加者を得られずにいる。卒業入学行事は1年生隊員のみ
の活動となるため現員数では難しい。来年度以降の働きかけの工夫改善を要する。
- ・グループ運営の充実と 個別学生指導について
実習ボランティアセンターからの指導内容ガイド・カルテファイル・L グループ用に作成している補助教材（プリント・学習段階の設定）を更にリンクさせて、現場実習を充実させるための授業展開を探る

【学会参加予定】 日本保育学会（5 月）日本乳幼児教育学会（11 月）

大 下 聖 治 准教授

【研究課題】

- ① 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム
- ② 運動技術の方法的運動系列に関する検討
- ③ 指導技術(コーチング)の習得に関する研究

④ 身体運動遊びと安全対策に関する研究

【教育課題】

- ① 乳幼児期に効果的な運動・遊びについて、学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
- ② 保育の現場で必要と思われる体力的要素の養成とサポート
- ③ 子どもの遊びや運動に積極的に関わり、工夫できる保育者の育成
- ④ 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
- ⑤ 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

- ① 日本体育学会
- ② 日本体力医学会
- ③ 日本保育学会

【社会的活動】

- ① 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
- ② NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進

片 山 知 子 准教授

【研究課題】 1) キリスト教に基づく保育の考察

- ① キリスト教保育の今日的課題と展望
- ② 保育者養成におけるキリスト教保育授業の構築
- ③ キリスト教保育の理念と保育実践の検証

2) 持続可能な発展 (ESD) の幼児教育

文科省科研費による共同研究に参加

「地域コアステーションとしての新しい保育モデルの構築と価値・機能の検討」

3) 子育て支援のあり方

- ① 和泉短期大学での子育て支援を通してその意義を検証する
- ② 地域における子育て支援者への研修 (その内容と方法等の検証)

1)－①継続して行う

1)－② 2015年3月和泉短期大学紀要にて発表。引き続き継続する

1)－③ 2015年5月日本保育学会にて研究成果の一部を発表。引き続き継続する

2) 保育学会、日本乳幼児教育学会等での発表も行い、順次まとめと報告の作業に取り組む

3)－① 2015年3月和泉短期大学紀要にて和泉短期大学子育て支援に関する共同研究発表。

引き続き継続

3)－②相模原市における子育て支援および子育て支援者研修の内容を検証

【教育課題】 1) 担当各教科の指導内容の工夫と充実

2) 保育者をめざす学生が建学の精神を思い起こしながら
専門職への学びができるよう援助する

3) CDC および学内施設を有効に活用し専門職教育の充実を図る

【学会参加予定】 日本保育学会

(5月大学開催：研究論文ポスター発表で参加)

OMEP 日本委員会総会

(OMEP 日本委員会個人会員および団体会員理事)

日本乳幼児教育学会

一般社団法人キリスト教保育連盟 夏期講習会

(7月大阪開催、理事長として参加)

【地域貢献】 相模原市子ども・子育て会議副会長

一般社団法人キリスト教保育連盟理事長

キリスト教保育連盟神奈川部会、他各部会加盟園での研修協力

横浜市幼稚園協会加盟園での研修協力

相馬 靖明 准教授

【研究課題】

1. 保連携型認定こども園への移行に伴う、勤務体系の異なる職員が混在する中での、質向上
へ向けた園内の研修体制について、モデル園の観察・聞き取り調査を行い課題を明らかに
する。

2. 保育者の成長契機の研究

保育者は自らの成長につながる学びをどのように構築しているのかについて、聞き取り調
査をもとに考察している。今年度は、転職・務条件変更しの経験のある保育者に対して聞
き取り調査を行い、保育者の成長との関連を明らかにする。

【教育課題】

1. 「言語表現」「幼児教育と情報機器」授業実践を通して、就業につながる力を育成すること。

2. 近隣の保育施設との協働を働きかけ、学生の能動的学習の場の創出を目指す。

【参加予定学会】

1. 日本保育学会 (2015年5月)

2. 子どもと保育実践研究全国大会 (2015年8月)

3. 全国保育士養成協議会研究大会 (2015年9月)

4. 日本教育工学会全国大会 (2015年9月)

【社会活動】

1. 子どもと保育総合研究所 (研究大会・セミナーなどの企画運営)

2. 公益財団法人鉄道弘済会こうさいセミナー年間講師

3. 神奈川県私立幼稚園連合会特別研究B部会講師

戸 塚 恵 子 准教授

【研究課題】・保育現場の健康課題と保育者の対応について

- ・子育て支援における地域の人材育成と医療・保健・福祉の連携について
- ・高齢者施設の看取りにおける看護・介護職の連携について

【教育課題】・自分の健康に関心を持ち、自分自身の生活習慣を見直すことができる保育者の育成

- ・子どもを取り巻く健康課題について、家庭や関係機関と連携しながら課題の軽減や解決に導くことができる保育者の育成
- ・医療や保健、看護の知識と技術を持ち、現場で的確に判断し対応できる保育者の育成

【参加予定学会】 日本小児保健学会、日本公衆衛生学会、日本介護福祉学会、日本自立支援学会、日本保育園保健学会、日本福祉看護学会、日本保健福祉学会

佐久間 志保子 准教授

【研究活動】 ・医療的ケアに対する介護職員の意識調査

- ・保育所における感染症の実態と課題
- ・災害に関する小規模高齢者・障害者施設の取組み

【学会参加予定】 ・日本在宅ケア学会

- ・日本社会福祉学会
- ・日本介護福祉教育学会
- ・日本環境感染学会
- ・日本認知症ケア学会

松 山 洋 平 准教授

【研究課題】

- ・「幼保一体化施設における子どもの育ちを支える保育の質と構造に関する研究」
- ・「未就園児の保護者の保育観と幼稚園選びとの関係」
- ・「保育者の子どもを理解することの深化についての研究」

【教育課題】

- ・担当科目「保育・教職実践演習」「保育方法」「保育内容人間関係」「教育課程論」において教材研究をすすめ、学生の実態を捉えたの授業展開を図る。
- ・各実習指導などと連動した、グループ担任としての職務内容を理解し、学生理解に努める。

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本乳幼児教育学会
- ・全国保育士養成協議会研究大会

【社会的活動】

- ・子どもと保育総合研究所 所員（研究大会・セミナーなどの企画運営）

- ・川崎市認可保育所ぶどうの木登戸園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木鷺沼園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・田園調布学園大学みらいこども園 園内研究会講師

河 合 高 鋭 専任講師

【研究課題】

- ①保育原理におけるインクルーシブな視点についての研究
- ②障がい乳幼児に関する保護者支援に関する研究

【教育課題】

- ・担当科目「保育課程論」の授業研究
- ・実習ボランティアセンター、実習授業との連携
- ・実習において学生個々が理解を深め、一層の授業の充実と工夫を図る
- ・「保育原理」「保育内容ことば」「障がい児保育Ⅱ」授業内容の改善
- ・担当グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援
- ・実習指導において保育者としての大切な心的態度やマナーについて

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本人間関係学会
- ・日本LD学会
- ・日本特殊教育学会
- ・自閉症スペクトラム学会

【社会的活動】

- ・東京都葛飾区私立幼稚園連合会 葛飾区私立幼稚園教育実践研究会 講師
- ・社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 自閉症カンファレンス日本 サポートスタッフ
- ・日本人間関係学会 支援活動委員 委員長
- ・光が丘地区まちづくり会議委員会 委員

佐 藤 美 紀 専任講師

- ##### 【研究活動】
- ・傾聴ボランティアにおける認知症高齢者との関わりの課題
 - ・高齢者福祉施設における認知症研修の実態調査

- ##### 【学会参加予定】
- ・日本介護福祉学会
 - ・認知症ケア学会

山 本 正 司 専任講師

【研究活動】

- (1) 社会福祉本質論争が現在に残した課題 ―政策論の視点から―
- (2) 厚生（福祉）と経済学の理論―その2―
―ビグー，ボランニーおよびハイエクが提起したこと―

【社会的活動】

民生委員・児童委員（横浜市港北区綱島西地区）任期 2013 年 12 月～2016 年 11 月

【学会参加予定】

- (1) 社会政策学会(秋季大会)
- (2) 日本社会保障法学会(春季大会)
- (3) 社会事業史学会

久保田 美沙子 助教

【担当科目】

社会的養護の内容

【専門分野及び関連分野】

保育学 児童福祉学

【所属学会】

日本子ども虐待防止学会 日本子ども家庭福祉学会

【教育課題】

実習・ボランティアセンター所属教員としての職務内容の充実と学生支援
担当科目教員として学生に保育士の専門性を深める授業を展開する

【研究課題】

（長期）社会的養護における家族支援に関する研究
（短期）社会的養護における母子関係を再構築するための支援に関する研究

【社会的活動】

2012/05～現在に至る 相模原福祉オンブズマンネットワーク オンブズマン

【研究業績】

1. 【論文】『母子生活支援施設における子どもへの支援
～一対一の関わりからの子どもの変化～』（単独）2009/03
2. 【論文】『母子生活支援施設における DV 被害児の理解と支援
～母子生活支援施設職員への調査から～』（単独）2011/03
3. 【論文】『DV 被害を受けた学童期の子どもの特徴緩和に関する研究
～母子生活支援施設における支援から』（単独）2014/03

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 松浦 浩樹）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2015年度は下記の点を重点的に取り組むこととする。本計画は、関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

- ①新カリキュラム(2014年度生から実施)の検証
- ②教育内容の体系化の充実(カリキュラムマップ等の再検討)
- ③新たな教育方法の導入にむけた検討（アクティブラーニング（能動的学習）・課題解決型学習（PBL）等）
- ④実習教育を中心としたサービスマーケティングのあり方の検討（「実習・ボランティアセンター委員会」との協働）
- ⑤ハード面における環境整備の提案(教室教育用機器備品についての整備の充実)
- ⑥障がいその他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討（「障がい学生修学支援委員会」との協働）

（2）学びの組織的支援

- ①ポートフォリオの充実（「キャリアファイル委員会」との協働）
- ②初年次教育のあり方の検討（短期大学における初年次教育、保育者養成校における初年次教育）
- ③中途退学防止に向けた取組みの充実（「離学者検討委員会」との協働）
- ④キャリアデザインセンター支援者を中心とする「保育者を目指す学びへの支援」に関する検討（「キャリアデザイン委員会」との協働）
- ⑤入学前教育の充実(方法・内容等の再検討)
- ⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学修の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映

（3）学修の評価

- ①アセスメントポリシー策定に向けた検討
- ②学修ルーブリックに関する検討
- ③GPA制度の活用に向けた検討
- ④成績評価の厳格な運用の推進
- ⑤学修成果のフィードバックのあり方に関する検討

（4）連携活動

- ①学校間連携の充実(保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等)
- ②高大連携プログラムの充実(聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等)
- ③産官学連携のあり方の検討(日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、相模原市高齢者施設協議会 等)

- ④地域連携のあり方の検討
 - ⑤専門職団体等との連携の充実(キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等)
 - ⑥保証人との連携の充実(保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携)
- (5)生涯教育
- ①リカレント教育の充実 (リカレント教育のあり方に関する再検討、卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催 等)
 - ②大学公開講座の充実(相模原市との共催 等)
- (6)キャリア教育の推進
- ①キャリア教育の推進(キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「キャリアデザイン委員会」「キャリアファイル委員会」との協働)
 - ②資格取得支援(保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他)
- (7)FD 活動の充実
- ①自己点検・評価報告書の作成(「自己点検・評価委員会」との協働)
 - ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討
 - ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
 - ④全教員参加の FD 研修会開催(「ファカルティディベロップメント委員会」との協働)
 - ⑤学生 FD 委員会活動への支援
- (8)教員の交流と研究活動の支援
- ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
 - ②教員の研究活動の推進(研究費の活用、外部研究資金調達への支援 等)
 - ③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討
- (9)情報公開・情報収集の推進
- ①自己点検・評価報告書の公表(「自己点検・評価委員会」との協働)
 - ②教員情報の公表(公表方法・公表項目の検討 等)
 - ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集(「IR 委員会」との協働)
 - ④保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集(「IR 委員会」との協働)

学生委員会 (学生部長 大下 聖治)

- (1) キャリアデザインⅠ (学生生活支援)・キャリアデザインⅡ (進路支援) の充実を図る。
- (2) 進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- (3) 学生支援におけるグループ・アドバイザーとの連携強化を図る。
- (4) 学資支援 (奨学金制度) の充実を図る。
- (5) 学生生活向上のための取り組みを学友会とともに進める。
- (6) 学友会活動 (いずみ祭・新入生歓迎大会・卒業パーティー委員会等) を支援する。
- (7) 学生の課外活動を支援する。
- (8) 健康管理センターを充実させる。

図書委員会（図書館長 櫻井 奈津子）

1. 特設展示の充実
 - ①新着図書紹介
 - ②各種特集図書の別置・企画展示
2. 蔵書の充実
 - ①保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ②選書バイヤーツアーによる蔵書購入
3. ラーニング・コモンズを踏まえた図書館利用者サービスの向上
 - ①図書館環境整備
 - ②共同研究室の充実
 - ③リサイクル図書、雑誌について
4. 図書館利用者のモラル向上
 - ①人的環境整備（掲示・声かけ・他媒体の検討）
 - ②図書未返却者への督促強化
5. 図書館ホームページの拡充
6. 図書館主催の講習会の検討
7. 研究紀要発行に関する検討
 - ①閲読基準の見直しと確認シートの作成
 - ②査読付き研究紀要導入の検討
 - ③研究紀要の電子化の検討
8. OPAC を含む、図書館システムの再構築
9. 学術リポジトリの導入について
 - ①学術リポジトリについての環境整備
 - ②研究紀要の厳選の必要性（論文、研究ノート、報告、資料等レベル確認）
 - ③本学における学術リポジトリについての規程づくり
10. その他
 - ①図書館学生アルバイト
 - ②図書館クリスマスイベント
 - ③図書館サポーター
 - ④図書館主宰のイベントと表彰（折り紙作品コンテスト等々）

入試広報委員会（入試広報部長 鈴木 敏彦）

1. 広報関係
 - ①学園報（izumi NEWS）の発行
 - ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
 - ③進学相談会等（高校教員向け、市内高校保育・福祉担当教員研究会、神奈川県私立短期

大学協会主催相談会)、オープンキャンパスの開催及び充実のための検討

- ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑤公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）の開催及び充実のための検討
- ⑥和泉プレカレッジ（高校生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑦広報戦略の検討
- ⑧教職員説明会の開催
- ⑨同窓会との交流
- ⑩その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- ①各入試（iAO 入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施
- ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
- ③各大学の入試関係データ収集
- ④その他の入試関係業務の遂行

実習・ボランティアセンター委員会（実習・ボランティアセンター長：山本 美貴子）

1. 実習に関する支援

(1) 実習施設の選定・連絡・調整

- ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
- ② 実習連絡会の実施（実習種別年 3 回）
- ③ センター便り発行を廃止し、「実習指導ミニマムスタンダード(実習実施要項)」の作成と実習先への送付（年 1 回）

(2) 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案

- ① 授業実施計画の立案
- ② 実習直前診断テスト・面談の企画、実施
- ③ 実習の事前・事後指導に関わる指導内容の検討及び科目担当者への教材・情報提供
- ④ 1,2 年生の共同授業企画実施

(3) 実習実施に関わる業務

- ① 保育実習Ⅰ（保育所・施設）期間変更に関わる交渉と実習先確保
- ② 上記①の実施機関の一本化への努力(1 月期：保育所、2 月期：施設)
- ③ 実習登録の受付と配属
- ④ 諸手続への支援（登録カード、実習生調書、腸内細菌検査、実習日誌、実習定期等）
- ⑤ 実習巡回指導にかかわる連絡・調整。(巡回担当教員の配属、調整等)
- ⑥ 麻疹、細菌検査等、陰性、陽性反応に対する実習実施規定の見直しと告知

(4) 実習教材・関連資料等の作成及び保管

- ① 「実習の指導手引き」の作成、編集、配布
- ② 実習記録（日誌）の作成、配布
- ③ 実習関連資料の収集と学生への提供

(5) 学生の個人情報（実習生調書、巡回指導記録、実習出席票・評価票等）の管理

- (6) インフルエンザ予防接種の実施
- (7) 必要に応じた学生への個別支援（家族支援要請）
- (8) その他の実習に関わる支援として、アドバイザーと連携し、特に支援の必要な学生とその家族の相談業務を随時実施。

2. ボランティア活動への支援

- (1) ボランティア募集に関する情報収集と学生への情報提供
- (2) 活動先との連絡・調整
- (3) 活動状況の把握
- (4) ボランティア活動関連資料の収集と学生への提供
- (5) 「ボランティア活動の手引き」の作成、配布
- (6) その他のボランティア活動に関わる支援

3. 2015 年度の重点課題

- (1) 学生の個別的な状況を配慮した実習実施への支援
 - ① 入学生の多様化、とくに健康面の課題を抱える学生の増加や学力差の拡大等を受け、実習実施・実習指導における学内コンセンサスの形成と、科目担当者との連携強化を図る。
 - ② 学生相談室・保健室との連携を重点課題とし、個別的対応を要する学生の情報を、グループアドバイザーも含めて共有し、対応上のコンセンサスを得る。
- (2) キャリアデザインセンターの活用（特別教室・キャリアファイルシステムの教材取り組み促進）を図る。
- (3) 実習管理システムの改善（施設データベースの改善）に向けた取り組みを行う。
- (4) 2014 年度生からの実習実施時期の変更に向け、実施時期のグループ配属の検討・カリキュラムの準備を進める。
- (5) 2015 年度は、上記（4）の理由より、センターの業務に留まらず、入学希望者増員のため教員一人当たりの学生数の増加により、指導者（アドバイザー）の巡回業務も煩雑になると推測され、これらに関わる書類のさらなる簡素化を目指す。
- (6) グループアドバイザーによる実習指導体制の長所（専任教員の個性・特徴・各々の教授法）を生かしつつ、実習指導上の「ミニマムスタンダード」を保持するために「指導手引きの充実」と「実習直前診断テスト・面談」による指導の充実を図る。
- (7) 保育実習の技術上の実質的な科目としての「保育課程論」の指導担当者と連携し、指導内容のコンセンサスを一層高める。
- (8) 2014 年度末に「和泉短期大学実習指導要綱」を現場での実習指導のミニマムディマンドとして位置付け、作成した。これらの精度や内容を高めるために、保育現場との一層の連携を図る。
- (9) 保育実習指導の専門性を高めるため「指導者用手引き」の内容の精査に一層努め、特にグループ・共同・合同・(1.2 年生の)共同授業の運営の独自性を生かした内容の構成に務める。

子育て支援プログラム運営委員会（委員長 片山 知子）

I. はじめに

子育て支援プログラム運営委員会の活動計画は前年度までの活動を振り返り、見出された課題を検討して毎年作成されている。特に中心的な活動である子育てひろば「はっぴい」は開催場所が学内のキャリアデザインセンター(CDC)を活用しての活動として周知され、地域からの参加者も一定数を得ることができている。

子育て支援については平成27年度から「こども・子育て関連3法による保育の新制度」が実施される。相模原市としても地域における子育て支援の拡充がはかられることになっており、和泉短期大学も今後、地域との連携や養成校として求められる役割を更に期待されている。2015年度の子育て支援プログラム運営委員会の活動計画は上記のような動きをふまえ、地域貢献とともに更に学生の学びの場としての意義を持ちながら行うものでありたいと考えている。

II. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4・8月を除く毎月、土曜日）

1. 子育て家族への支援

- ・子どもや保護者が安心できる安全な遊び場と、季節に応じたテーマによる活動や良質の文化、芸術に触れる体験の提供。
- ・親子が共に遊びを楽しみ、くつろげる環境を用意する。保育支援者によるサポート体制を今年度も同じように継続して行っていく。
- ・学生ボランティア(以下学生)を活用し、遊びの見守り（安全への配慮）を行い、楽しい企画（お楽しみ）を提供していく。
- ・毎回子育て支援プログラム運営委員会委員のほか、専任教員が年間で1回の参加協力を依頼。
- ・参加保護者との気軽な会話や、親しみやすい関係を作るなど、教職員から保護者に働きかけることで、子育ての負担や悩みの軽減を図り、必要に応じて教員の専門性を生かした相談活動等の対応や、専門機関の紹介等を行う。

2. 学生へ実践的な学びの場を提供する

- ・新入生オリエンテーションでの呼びかけ、4月中に説明会と準備会を開催し、年間登録制の参加学生を募る。
- ・キリスト教主義の学校として建学の精神を常に意識し、地域の子育て家庭への奉仕の業としての活動と考える。活動の始まりと終わりには神への祈りの時を持つ。キリスト教に初めて接する学生達が多い状況であるが、毎回交代でリーダーを担当する時、用意された祈りの言葉を用いて神に祈る経験を持つ。
- ・学生が乳幼児と触れあいながら乳幼児の状況を知る、あるいは実際に関わる中で子どもを学ぶ機会とする。子どもだけではなく保護者との会話を体験し、保育職として不可欠のコミュニケーション力を育む。
- ・学生主体の企画（絵本・紙芝居・パネルシアター・手遊び・スタンプ・演奏など）の発表の機会を作り、学生の学習意欲の向上を図り、実践経験の機会を増やす。
- ・学生は前日の準備から当日の終了まで環境整備にかかわり、教職員、保育支援者と交流しながら基本的な生活スキルや保育環境としての配慮を実践的に学ぶ機会を得る。

- ・学生の活動後の支援をバズセッション等のコミュニケーションの場で具体的に促進する。
 - ・8月に学生に対して交流と実践的研修、秋の学校農園での芋ほりのための草取り作業などのプログラムを持つ。
3. 高校生への対応
- ・入学前教育プログラムの一環として、「はっぴい」の活動に高校生が接する機会として協力し、「はっぴい」へ参加を希望する高校生は12月および1月から3月のプログラムに受け入れる。
4. 卒業生との連携
- ・卒業生が希望する場合は「はっぴい」活動時のボランティアとして積極的に受け入れる。
 - ・卒業生の子育て世代の親子参加を促し、同窓会の広報活動に協力する。
5. 「はっぴい」の周知活動
- ・本学のHPでの紹介の他、タウン誌等の取材に応じ、記事掲載の依頼等、活動内容を広める。
 - ・HPで「はっぴい通信」の発行（年4回を予定）
 - ・地域の子育て支援関係団体等からの見学の依頼に協力する。
6. 1年間の活動の振り返りと実態調査
- ・参加者の保護者に、実情と要望を探るためのアンケート調査を実施し、地域貢献の今後の在り方を模索する。
 - ・参加した学生の現状や要望を探るための調査を実施し、今後の学習支援の方向性を探る。
 - ・上記2つのアンケート等を基に、「はっぴい」の活動を振り返りつつ、活動報告書、あるいは論文を作成し、紀要に掲載する。

III. CDCの充実及び子育てひろば(施設開放：毎週木曜日の実施)との連携

1. 木曜日の地域親子へのCDCを遊び場として施設開放する中で学生たちが日常的に、自然に幼児やその保護者に関わること、あるいは積極的に関心を寄せる機会とし、「はっぴい」の活動と連続性が図られている。これは保育就業力の根底を支える実践である。このような自然な関わりを通して、学生が保護者のニーズを直に感じとる機会ともなっていることの意義は大きい。今後もCDCの保育環境・教材(玩具・絵本)の質の高さを、保護者が共感し、強い関心を示している状況があることを踏まえ、更に環境の充実に努める。またこの児童の「文化」を備える・伝えることの意味を、授業・講義を超越して、学生が体感しており、その視点での取組みも継続していく。
2. 継続的な課題として、今後は環境と教材の一層の充実と共に、「絵本・玩具 LIBRARY」として、親子に対して自由に絵本や玩具の貸し出し可能性の構想を持ち続けたい。貸出することによる利用者の拡大、安定的利用を図ることは、本校の地域貢献ともなると考える。
3. 基本的には、保護者からの相談に対してサポートィヴな姿勢を保ち、必要な情報提供（専門機関の紹介も含む）を行っていくことと、季節に応じた話題の提供を行う。
4. 子育て講演会を企画し、子どもを遊ばせるだけではなく、保護者の実質的な悩みに向き合えるような講演者を招き、学生を巻き込みながら、大人の<学び>の場を提供する。
5. 地域の子育て支援力が求められており。それには子育て世代の当事者が子育て支援の担い手になるという循環が期待されている。質の高い子育て支援のあり方を提案することも「はっぴい」の役割である。

IV. おわりに

2014年度を振り返り、活動計画に挙げながら十分ではなかったところを含めて2015年度も継続的に取組みたいと考えている。なお、CDC も改装数年を経て自然消耗がみられることから今年度においても環境の保持管理に工夫が必要である。活動の充実とともに現在不足してきている教材教具の効率的な保管管理、適切な収納場所の必要が求められており、活動計画の円滑な遂行のため、今年度も引き続き検討課題である。

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・ 入学案内書一式	2015年	4月中旬発行予定
・ 奨学金リーフレット	2015年	5月上旬発行予定
・ 高校1,2年生向けリーフレット	2015年	4月中旬発行予定
・ オープンキャンパス告知ポスター	2015年	4月中旬配布予定
・ 首都圏高等学校送付入学案内書パック	2015年	4月下旬発送予定
・ izumi NEWS 25号	2015年	5月下旬発行予定
〃 26号	2015年	8月上旬発行予定
〃 27号	2015年	12月上旬発行予定
〃 28号	2016年	3月中旬発行予定
・ 受験生向けメール ①(夏のオープンキャンパス)	2015年	7月上旬発送予定
・ 〃 ②(学園祭)	2015年	9月下旬 〃
・ 〃 ③(クリスマスカード)	2015年	12月上旬 〃

(2) 主催型広報活動

- ・ 高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・ 高等学校保育・福祉担当教員研究会（6月）
- ・ 和泉プレカレッジ（6月3年生対象・12月2年生対象）
- ・ オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・ オープンキャンパス

1	2015年 4月 25日（土）	13：30～16：00
2	2015年 5月 24日（日）	13：30～16：00
3	2015年 6月 13日（土）	13：30～16：00
4	2015年 7月 4日（土）	10：30～14：00
5	2015年 8月 1日（土）	10：30～14：00
6	2015年 8月 20日（木）	13：30～16：00
7	2015年 9月 19日（土）	13：30～16：00
8	2015年 10月 24日（土）	11：00～14：00
9	2015年 10月 25日（日）	11：00～14：00
10	2015年 11月 7日（土）	13：30～16：00
11	2016年 1月 9日（土）	10：30～12：00
12	2016年 3月 26日（土）	13：30～16：00

（個別相談会）

（個別相談会）

（入試相談会）

（入試相談会）

（３）参加型広報活動

- ・ 相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」（通年）
- ・ 高等学校内ガイダンス・模擬授業（随時）
- ・ かながわ短大フェア（神奈川県私立短期大学協会）（４月）
- ・ 進学相談会（会場形式）（随時）
- ・ 「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」（かながわ大学生涯学習推進協議会）（７月・９月）
- ・ 「ふれあいいきいきフェスタ」（１１月）

（４）公開講座

- ・ 市民大学（相模原市・座間市と共催）前期・後期２講座
- ・ さがまちカレッジ「中学生対象講座」（１２月）

和 泉 短 期 大 学

(1) 雑誌・交通広告等掲載・掲出

(2015 年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1 年間
(株)ビー・プライム	デジタルパンフレット	1 年間
	本学ホームページ公式サイト制作 Facebook	
(株)マイナビ	マイナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
(株)リクルート	リクナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
	進学事典 (応援号)	1 2 月
	就職・資格・キャリア号	3 月
キッズコーポレーション(株)	学校ガイド (インターネット商品)	1 年間
	進学の森 大学・短大カタログ	4 月
(株)さんぼう	短期大学まるわかり事典	4 月
(株)昭栄広報	進路ノート	4 月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む)	4 月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4 月
(株)ディスコ	LINE	1 年間
(株)育伸	TRI-ANGLE (インターネット含む)	4 月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4 月
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4 月
(株)進学教育研究社	ガマダス	4 月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4 月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5 月
(株)タウンニュース社	タウンニュース 暑中お見舞い号・名刺広告	7 月
	〃 元旦号・名刺広告	1 月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1 月
(一社) キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10 月
(有)ティーディーエス	ipad 大学紹介 AR マーカー管理継続	1 年間

(株)ニューアド社	淵野辺駅看板	1 年間
(株)桜栄社	相模大野駅看板	1 年間
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称保守管理	1 年間
広告社(株)	小田急線まど上連合広告	1 年間
	J R 横浜線まど上連合広告	1 年間

8. 施設・設備経費

2015(平成27)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

						金 額	
(教員関係経費)						11,953	
研 究 費	児 童 福 祉 学 科		単価		教員数		
	○ 教 授		270	×	6		1,620
	○ 特 任 教 授		270	×	2		540
	○ 准 教 授		260	×	9		2,340
	○ 専 任 講 師		250	×	1		250
	○ 助 教		50	×	1		50
			10	×	1		10
					19	計	4,810
	専 攻 科		単価				
	○ 准 教 授		260	×	1		260
	○ 専 任 講 師		250	×	2		500
				3	計	760	
					22名	計 (	5,570)
学長裁量経費							
○ 共同研究費、教育改革研究費						新 規	1,300
						計	1,300
合計		6,870					
教 材 費		○ 専任・非常勤教員					2,883
旅 費 交 通 費		○ 学 会 参 加 1回 @50限度 1人 2回まで 22名					2,200
(施 設)						101,358	
土 地	内 容		設置場所		金 額		
	○ 土 地(1,536㎡)〈第2号基本金〉	スクールバス駐車場	2号館隣地	繰 延 ①	100,000		
2014年度から繰り延べ					計 (	100,000)	
建 物	○ アーティオンカーテン	アクティブラーニング教室 簡易間仕切り	200教室	新 規 ②	972		
	○ 外階段	3号館から2号館への外階段手すり	3号館	新 規 ④	386		
					計 (	1,358)	
(設 備)						23,966	
教 育 研 究 用 機 器 備 品		内 容	個数	設置場所			
		○ プロジェクター、スクリーン一式	2	304,305教室	新 規 ④	1,558	
		○ アクティブラーニング教室備品(プロジェクター他)		200教室	新 規 ②	8,187	
		○ アクティブラーニング教室備品(机・椅子)	50組	200教室	新 規 ②	5,093	
		○ アクティブラーニング教室 壁面ホワイトボード他		200教室	新 規 ②	1,728	
		○ マークシートリーダー		事務局	取替更新 ④	1,102	
		○ 木製展示用書架		図書館	新 規 ④	1,107	
					計 (	18,775)	
そ の 他 の 機 器 備 品	○ プロジェクター、大型スクリーン	取替更新		クラークホール	取替更新 ④	2,135	
	○ 食器洗浄機	取替更新		学生食堂	取替更新 ④	864	
	○ ゆで麺機	取替更新		学生食堂	取替更新 ④	432	
	○ 防火・防排煙設備システム	新 規		1号館防火扉	取替更新 ④	520	
					計 (	3,951)	
図 書		○ 児童福祉学科 1,200 専攻科 40					1,240
						計 (	1,240)

2015(平成27)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

新規及び主な経費	内 容	個 数	場 所	金 額
消 耗 品 費	○ プロパンガス警報器取替	14個	栄養実習室、食堂	取替更新 ④ 98
	○ 砂場設置、砂及び運搬	1	学生ホール隣接地	新 規 ④ 203
	○ プロジェクター用ケーブル	3組	教 室	新 規 ④ 124
	○ 白板取付	1	210教室	新 規 ④ 78
	○ 学生用ノートパソコン	2台	進路支援センター	取替更新 ④ 150
	○ アクティブラーニング室整備 PC保管庫他		200教室	新 規 ② 4,778
				計 (5,431)
光 熱 水 費	○ 電気			14,600
	○ 水道			2,389
	○ プロパンガス			1,289
				計 (18,278)
通 信 費	○ インターネット基本料金			781
	○ 保護者宛成績通知、保証人会、学納金、求人票			349
				計 (1,130)
維 持 修 繕 費	○ 変電設備整備改修		1号館	取 替 ④ 294
	○ 外壁塗装・シール取替工事		2号館	修 繕 ③ 11,699
	○ 床、階段Pタイル取替工事		2号館	修 繕 ③ 1,610
	○ グリストラップ蓋取替		3号館(食堂)	取替更新 ④ 146
	○ 消火栓露出配管工事、1号館衛生配管診断		4号館	取替更新 ④ 3,499
	○ アクティブラーニング システム保守他		200教室	新規 ② 1,196
				計 (18,444)
支払報酬手数料	○ スクールバス委託運行費	@880.2 × 4台 × 12 M		42,723
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬他			3,961
	○ 食堂委託管理費			2,640
	○ 管理人業務費			7,194
	○ 業務用システム維持支援費			1,124
	○ アクティブラーニング室整備	PC設定作業費	200教室	新規 ② 432
				計 (57,642)
賃 借 料	○ サーバー年間利用料	ポートフォリオシステム		1,043
	○ 防犯カメラシステム一式(リースアップ)	本館、研究棟、体育館	カメラ16台、モニター、レコーダー他	105
	○ 駐車場土地使用料			2,400
	○ 職員用ノートパソコン	25台、サーバー1台	事務局	706
	○ コピー機、ファックス	事務局・2号館	4台	466
	○ ペーパーレス会議システム	25台、サーバー1台	会議室	573
	○ 公用車(軽自動車)リース料		1台	358
				計 (5,651)
奨 学 費 (給 付)	○ 眞鍋記念奨学金	8名	1.2年次の前後期に分割	650
	○ 児童福祉奨学金	1年後期、2年(前後期)	@100×5名	100
	○ 卒業生・在学生家族	12名	@50(入学金一部減免)	600
	○ 学修奨励奨学金	経済的支援他	新制度	1,970
				計 (3,320)
広 報 宣 伝 費	○ 入学案内書、媒体広告他			24,398
				計 (24,398)
清 掃 費	○ 日常清掃、定期清掃		全 館	13,911
	○ 空調機ロスナイ分解清掃	39台	1号館	④ 400
				計 (14,311)
部 活 動 補 助 費	○ 体育系サークルユニフォーム			取 替 ④ 295
	○ 綱(サークル活動綱引き用)	4本	4号館	新 規 ④ 186
				計 (481)

2015(平成27)年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費		内 容	個 数	場 所	金 額	
雑 費	○	砂場設置諸費用		4号館植栽	新 規 ④	77
	○	外壁塗装工事に係る既存シール撤去費		2号館	修 繕 ③	498
	○	消火栓配管設置工事 養生片付け		4号館	修 繕 ④	119
	○	アクティブラーニング室 既存黒板撤去費		200教室	修 繕 ②	270
					計 (	964)

※ 主な事業計画	計	150,236
----------	---	---------

①	土地取得(1,493㎡)	総 額	100,000
※ ②	アクティブラーニング教室 設備等整備費	総 額	22,656
③	外壁塗装、内部共用部分Pタイル取替改修工事	2号館 総 額	13,807
④	砂場設置、他施設・設備整備事業経費	4号館周辺 総 額	13,773

※	アクティブラーニング教室整備 = 文部科学省が推奨している教育・学習成果を上げる主体的・能動的な授業法。 文部科学省の「大学改革総合支援事業」(補助金)に2015年度も申請予定		
---	---	--	--

9. 財政の概要

資金収支計算書（2011年度～2015年度）

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

		専攻科に改組			予 算	予 算
科 目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	703,100	686,633	679,471	638,400	624,700
	手 数 料 収 入	10,921	10,881	9,773	8,490	8,490
	寄 付 金 収 入	2,918	3,948	1,275	500	500
	補 助 金 収 入	60,467	48,297	60,564	49,362	40,100
	資 産 運 用 収 入	23,367	18,955	22,165	11,750	9,000
	資 産 売 却 収 入	0	0	120,000	0	0
	事 業 収 入	2,270	2,544	2,410	2,180	3,223
	雑 収 入	1,361	23,525	18,604	410	31,489
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	247,010	249,095	230,590	213,450	213,350
	そ の 他 の 収 入	68,122	13,354	295,735	424,537	121,877
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 252,624	△ 269,616	△ 276,921	△ 213,350	△ 242,370
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,720,744	1,827,567	1,836,611	1,863,486	2,020,000
	合 計	2,587,656	2,615,183	3,000,277	2,999,215	2,830,359
支出の部	人 件 費 支 出	384,867	415,923	403,582	382,599	423,027
	教 育 研 究 経 費 支 出	115,902	112,458	121,844	154,602	142,927
	管 理 経 費 支 出	110,159	109,968	103,912	103,023	101,357
	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	34,134	97,501	23,221	123,620	101,358
	設 備 関 係 支 出	9,080	5,666	26,612	7,638	23,966
	資 産 運 用 支 出	103,026	52,885	418,288	301,834	70,653
	そ の 他 の 支 出	16,259	20,097	42,592	11,997	12,000
	予 備 費 支 出	0	0	0	30,000	30,000
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 13,338	△ 35,926	△ 3,260	△ 3,150	△ 3,221
	次 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,827,567	1,836,611	1,863,486	1,887,052	1,928,292
	合 計	2,587,656	2,615,183	3,000,277	2,999,215	2,830,359
資 金 収 支 差 額		106,823	9,044	26,875	23,566	△ 91,708
短期大学学生数		563名	553名	546名	520名	507名
専門学校(専攻科)学生数		26名	21名	19名	20名	20名
前年度対比学生数		43名	△15名	△9名	△25名	△13名

